



▲2005年マイルチャンピオンシップ(G1)

世界に挑んだ 優駿たち

— Vol.16 —

▼2005年香港マイル(G1)

マイル戦の申し子

ハットトリック

サンデーサイレンス産駒のハットトリックは、いまや世界的に知られる名トレーナーとなった角居勝彦調教師がキャリアの初期に送り出した優駿の1頭である。

デビューは遅く、3歳5月の未勝利戦。ここを快勝すると、次走の牡丹賞(500万下)にも優勝。その後、初の重賞挑戦となったラジオたんぱ賞で9着に敗れると休養に入った。

快進撃は戦線に復帰した秋シーズンに始まる。1000万下、1600万下と特別戦を強烈な末脚で連勝すると、翌2005年1月の京都金杯も直線12番手から凄まじい追い込みを見せて快勝。その余勢を駆って臨んだ東京新聞杯でも、上がり3ハロン32秒9(推定)という恐るべき切れ味で一気に突き抜けた。重賞2連勝を果たし、いよいよG1タイトルにリーチをかけたかと思われたが、しかしそこから読売マイラーズC(9着)、安田記念(15着)と見せ場なく敗れ、春シーズンを終えた。

秋の復帰戦となった毎日王冠を末脚不発で9着と敗退し、次走の天皇賞(秋)も7着に終わった。それでも、天皇賞で使った末脚の鋭さに復調が感じられたことや、マイル重賞2勝の実績が買われ、続くマイルチャンピオンシップで3番人気に推されたハットトリックはここで一変する。従来どおり道中は後方を進み、直線で馬群の外へ持ち出されると豪脚一閃。一完歩ごとに先団との差を詰め、先に抜け出して逃げ込みをはかるダイワ



メジャーをゴール寸前でハナ差交わして優勝。ドラマチックな逆転劇で念願のG1タイトルを手に入れた。

次の目標として陣営が向かったのは、ハットトリックにとって初の海外遠征となる香港マイルだった。ここでも後方待機の策をとり、直線で外へ進路をとると一気に10頭以上をゴボウ抜き。地元・香港の強豪ザデュークに1馬身1/4の差をつける圧勝を遂げた。

その後は翌年のドバイ・デューティフリーに参戦したが12着に敗退。国内でも勝ち鞍をあげることはできず、2007年の読売マイラーズC(6着)を最後に現役を引退した。

しかしここからまた、彼のレース運びと同様にドラマチックな展開が待っていた。父サンデーサイレンスの血を買われて米国で種牡馬入りを果たしたハットトリックは、シャトルサイヤーとして南半球でも供用されることになる。すると、産駒のダビルシムが仏G1を連勝し、同年の仏年度代表馬に選出される快挙を達成。米国やアルゼンチンでも産駒がG1レースを勝つなど、南北半球を股にかけて次々と活躍馬を輩出。いまや世界的な名種牡馬となった。

全成績		中央19戦7勝				海外2戦1勝	
年月日	場	レース名	距離	着順	タイム	騎手	
2004. 5. 8	東京	3歳未勝利	1600	1	1:36.9	柴田 善臣	
5.29	東京	牡丹賞	1600	1	1:34.0	柴田 善臣	
7. 4	福島	ラジオたんぱ賞(GⅢ)	1800	9	1:47.9	柴田 善臣	
10.24	京都	ナリタブライアンメモリアル	1800	1	1:47.0	武 豊	
11.13	京都	清水S	1600	1	1:33.5	武 豊	
2005. 1. 5	京都	スポーツニッポン賞京都金杯(GⅢ)	1600	1	1:34.0	武 豊	
1.30	東京	東京新聞杯(GⅢ)	1600	1	1:33.7	武 豊	
4.16	阪神	読売マイラーズC(GⅡ)	1600	9	1:34.3	武 豊	
6. 5	東京	安田記念(GⅠ)	1600	15	1:33.3	四位 洋文	
10. 9	東京	毎日王冠(GⅡ)	1800	9	1:47.3	蛸名 正義	
10.30	東京	天皇賞(秋)(GⅠ)	2000	7	2:00.5	O. ベリエ	
11.20	京都	マイルチャンピオンシップ(GⅠ)	1600	1	1:32.1	O. ベリエ	
12.11	香港	香港マイル(GⅠ)	1600	1	1:34.8	O. ベリエ	
2006. 2.26	中山	中山記念(GⅡ)	1800	11	1:50.8	O. ベリエ	
3.25	ドバイ	ドバイ・デューティフリー(GⅠ)	1777	12	—	O. ベリエ	
6. 4	東京	安田記念(GⅠ)	1600	13	1:34.0	岩田 康誠	
6.25	京都	宝塚記念(GⅠ)	2200	7	2:14.6	岩田 康誠	
10. 8	東京	毎日王冠(GⅡ)	1800	12	1:46.3	岩田 康誠	
10.29	東京	天皇賞(秋)(GⅠ)	2000	8	1:59.8	岩田 康誠	
11.19	京都	マイルチャンピオンシップ(GⅠ)	1600	8	1:33.5	岩田 康誠	
2007. 4.14	阪神	読売マイラーズC(GⅡ)	1600	6	1:33.1	四位 洋文	

※レース名は当時の表記による

ハットトリック 牡 青鹿毛 2001年4月26日生

調教師：清水美波 → 角居勝彦 馬主：(有)キャロットファーム

父 サンデーサイレンス 1986 青鹿	Halo	Hail to Reason
		Cosmah
	Wishing Well	Understanding Mountain Flower
母 トリッキーコード 1991 青鹿	Lost Code	Codex
		Loss Or Gain
	Dam Clever	Damascus Clever Bird